

園だより 12月号



あそびから学びへ

園長 柿原 直昭

地面には落ち葉が広がり、秋を通り越して、急に冬を感じる季節となりました。

11月10日(金)に園内研修会がありました。講師には、全日本家庭教育研究会本部講師、元東京都公立小学校長 長津 芳先生にお越しいただきました。長津先生は、私が初任の時に配属された小学校の校長先生です。当時とお変わりなくエネルギーに満ち溢れた先生でした。

長津先生のお話の中で幾度となく、あそびという言葉が繰り返されました。幼児期にやってみたい3つのあそびを紹介します。

1、からだあそび

- ①おにごっこ・・・ランダムに走り、身をかわしながら走る力を身に付けることができる。
- ②エアーナわとび・・・技を身に付けることにより、リズム感を身に付けることが大切である。
- ③表現あそび・・・そのものになりきることで感性が磨かれる。自信がもてるようになり、積極性が芽生える。
- ④ケンケンパ・・・リズム感とともにバランス感覚や巧緻性が養われる。

2、ことばあそび

- ①しりとり・・・2分間続けられるかな？20こ続けられるかな？あそびながら語彙が増えていく。
- ②かるたとり・・・言語に親しみ、瞬発力が身に付く。日本語のリズムが体に染み込んでいく。
- ③3つのヒント・・・3つのヒントを出して何かを当てる。想像力や物事を関連付けて話す力が身に付く。

3、手先をつかうあそび

折り紙 落書き ねんどあそび つみき 等

引き続き本園でも人との関わり合いを大切に、あそびをとおして学びにつなげる保育を行っていきます。



★11月の保育のねらい★

- <年中> ・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の思いや考えを受け止めたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
・季節の変化や年末年始の行事に関心をもつ。
- <年長> ・友達と考えを出し合って工夫することで、遊びが面白くなることを十分に味わう。
・目標に向かって繰り返し取り組む楽しさや、できた満足感を味わう。
・年末年始の行事や日本の伝統文化に関心をもつ。
・学級の友達と、イメージを出し合いながらいろいろな表現遊びを楽しむ。